

黒井城の紹介

目次

- ・赤井直正と明智光秀の紹介
- ・戦法
- ・黒井城の仕掛け
- ・まとめ 登った感想

＊黒井城は、1989年（平成元年）8月11日に、国指定文化財（史跡）に指定され、2017年（平成29年）4月6日に、続日本100名城に指定されました！

1 赤井直正と明智光秀の紹介

黒井城に登る皆さんへ、皆さんは黒井城にまつわる歴史を知っていますか。このホームページでは、黒井城についての歴史を紹介していきます。



・赤井(萩野)直正について

赤井直正は、織田信長が当時一番信用していた明智光秀をたおし、丹波の赤鬼の名で知れ渡りました。(悪右衛門直正と名乗りました)
直正は赤井家で生まれ萩野家の養子になりました。
そして、黒井城(保月城)の城主になりました。
赤井直正は、首にできた腫瘍が悪化して亡くなりました。



・明智光秀について

明智光秀は、当時織田信長が1番信用していた人でした。
しかし、1回戦目は赤井直正に敗れてしまいましたが、
明智光秀は作戦を見直し、やっとのことで、丹波を制圧しました。
そのあと織田信長を裏切り、本能寺の変を起こしました。



参考↓[赤井\(萩野\)直正～赤井悪右衛門～ | 丹波市観光協会](https://www.tambacity-kankou.jp)
<https://www.tambacity-kankou.jp/spot/spot-365>

[丹波市観光協会](https://www.tambacity-kankou.jp)

(感想)

僕は、赤井直正が、当時強かった明智光秀に勝ったことがとてもすごいと思ったし、そんな強い人が住んでいた城跡が近くにあるということがとてもほこらしいです。

担当 黒井小学校 6年 久下徠斗

2 戦法について

織田信長は1575(天正3)、**明智光秀**を総大将とする「丹波攻め」を開始。この年の11月に黒井城を攻撃した。黒井城は兵糧が尽き落城寸前だったが、1576(天正4)年1月、明智軍にいた多紀郡(現在の篠山市)の八上城主・波多野秀治の軍が**赤井軍**に寝返ったことで、状況が一変。明智軍は**大打撃**を受け、光秀は命からがら逃げ帰った。

直正は波多野と密かに手を結んでいたといわれ、この戦いは後に「赤井の呼び込み戦法」と呼ばれています。

(感想)

赤井直正は、明智光秀から丹波を守るために自分流の戦法を編み出すほど頭がいいと思ったし、この戦法を成功させるほどの準備をしていて、明智光秀に勝った理由がここにあるんじゃないかなと思います。

担当 黒井小学校 6年

西田 瑛亮

3 黒井城の仕掛けについて

・たてぼり



たてぼりとは、敵に横移動をさせない仕掛けです。横移動できないということは攻撃をよけれないことだから、赤井軍は一方向的に攻撃できて、戦いが有利になります。



・木(栗)

昔は山の木が切ってあって、大事な部分は木や栗の木など...で、かくしてありました。なぜかという、敵に見られないようにするためです。栗の木など...食料にもなります。

・沼

黒井城の近くにあった沼に敵を沈めた。

上から見たら、敵が見えるけど、下から見ると上にいる人が見えにくい構造になっています。

・一番印象に残った仕掛け(感想)

僕が、一番印象に残った仕掛けは、たてぼりです。理由は、横移動ができないし、移動がむずかしいから、一方的に攻撃できて、戦いが有利になるというところが、印象に残りました。

黒井小学校 6年 荻野大河

黒井城(保月城)に登った感想(感想)

仕掛けなどに注目して登ると、黒井城(保月城)の歴史についてよく知ることができました。先ほどの、赤井直正の呼び込み戦法や、工夫によって明智軍を撃退することができました。

印象に残ったことは...両側が谷の地形で、敵が来たら上から弓矢などが飛んできて、敵をたおしました。自分だったら、すぐにたおされそうだと思います。それほど赤井直正は頭がいいと思いました。登山してみたら、黒井城の下りが少し滑り、(少し)危ないのでゆっくり降りてください。担当 黒井小学校 6年 長澤心奏

これから黒井城に登山される皆さんへ↓

登るときには、クマなどがいるかもしれないので鈴などをつけていくことをおすすめします。滑りやすくなっているのが靴などは、歩きなれた靴などで、登山することをおすすめします。「9月中旬～12月初旬には、寒暖差がある晴天の早朝に多く霧が発生し、綺麗に雲海を見ることができます。」駐車場や場所などは、こちらの↓サイトに書いてあるので確認してみてください。参考↓

[黒井城跡完全ガイド-雲海時期・登山時間・駐車場- | Tamba Style \(丹波市観光ポータルサイト\)](#)

まとめ

皆さんは、黒井城(保月城)について、知ることができましたか。ぜひ、これを参考にして黒井城に登ってみてください。